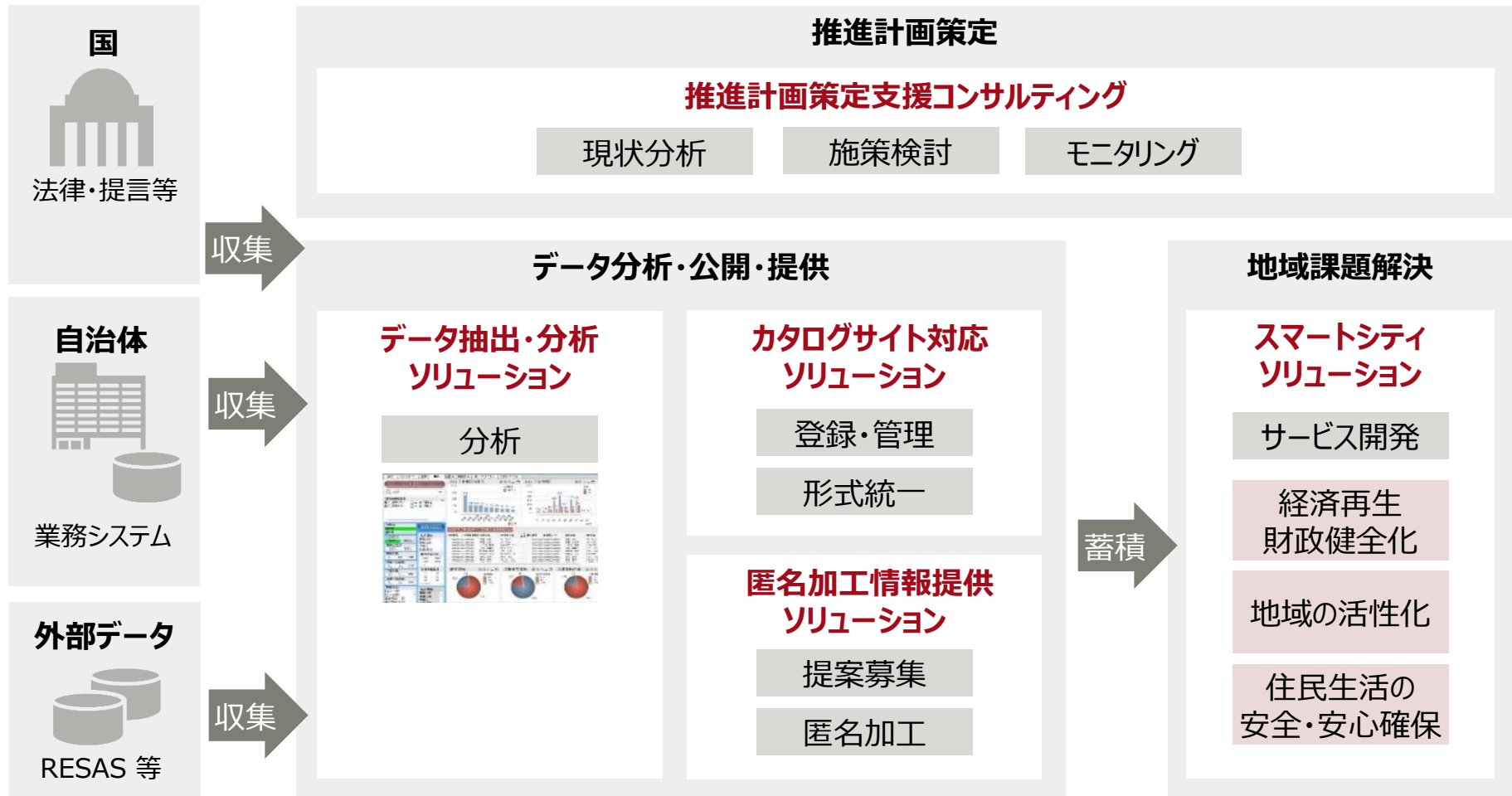


富士通の自治体データに関する 非識別加工情報等の取組ご紹介

平成31年3月1日
富士通株式会社

非識別加工情報活用に係る 弊社の取り組み

計画策定から地域課題解決まで、データ利活用をトータルサポート



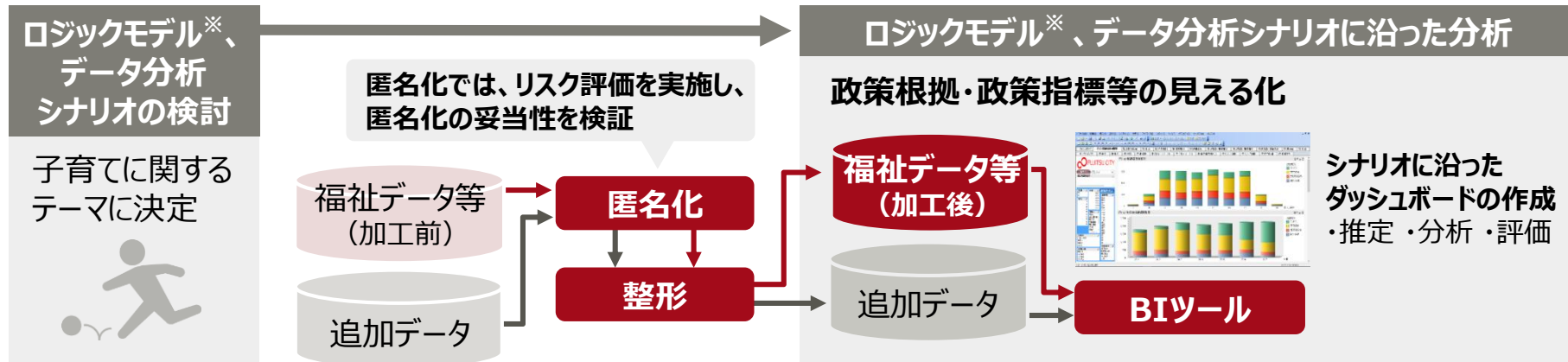
富士通は、各分野に対してサービス・ソリューションを整備

庁内データを匿名加工しての利活用・分析をご支援

実証実験の内容

- ロジックモデルの整理及びデータ分析のシナリオを検討し、政策立案の基礎資料になるか評価
⇒ **検討の前段として福祉データ等を匿名化** 配慮を要する情報を加工することで安全に活用

2018年度	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プロジェクト	▼7/3データ分析実証事業の協力企業募集				▼11/8協定締結				
スケジュール	選定				調査・分析				



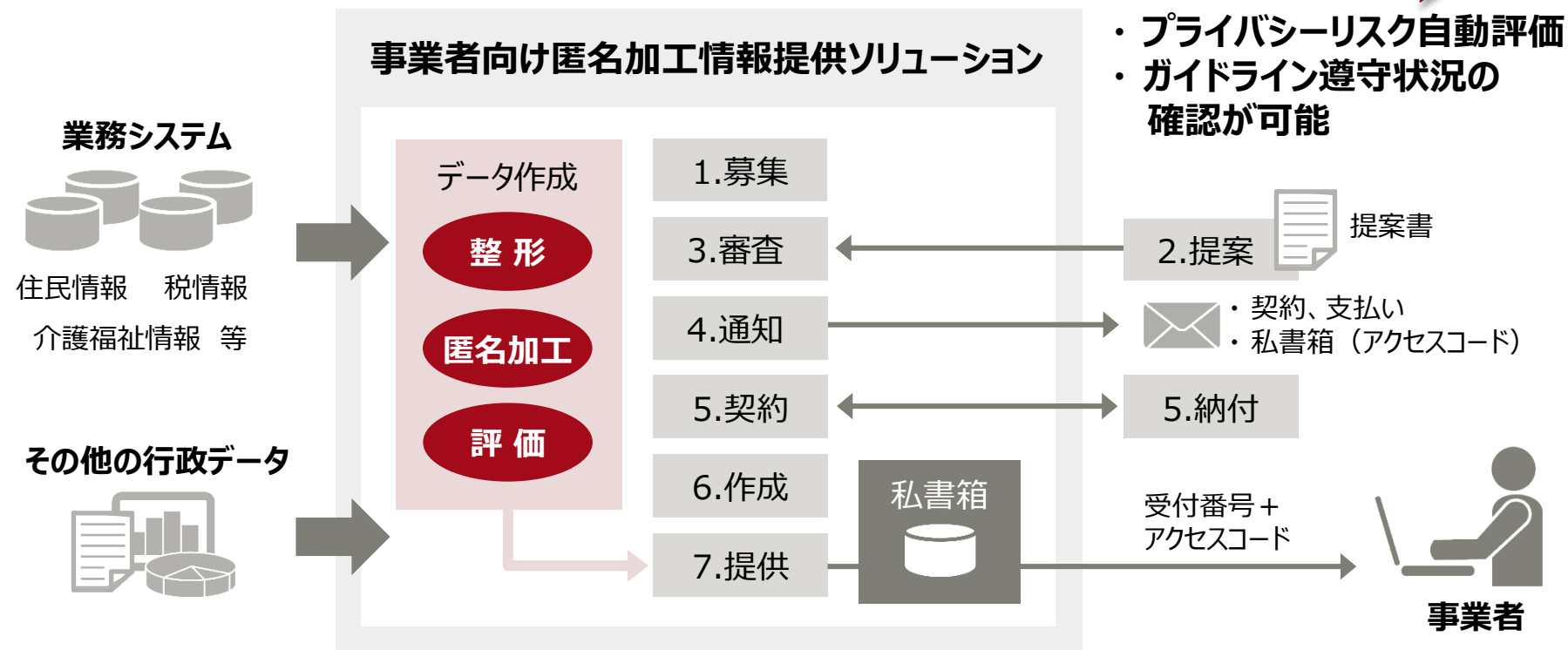
※ロジックモデル：課題に対し施策がその目的に達成するまでの論理的な因果関係を示すフロー

「子育て」をテーマにデータ加工・分析の実証推進中

行政機関個人情報保護法改正を考慮したデータ作成・提供

事業者向け匿名加工情報提供ソリューション

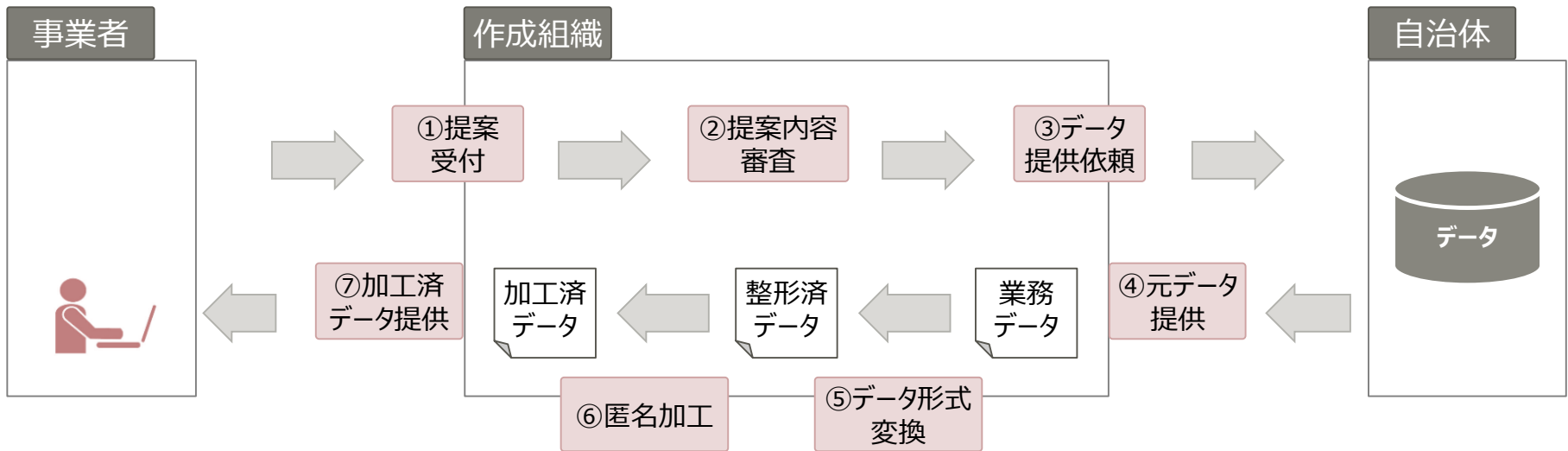
提案募集、事業者からの提案受付から匿名加工情報のデータ作成、私書箱経由でのデータ提供と一連の事務をサポートする仕組み等を改正法施行時に検討



匿名加工情報のプライバシーリスクを自動評価し、リスクを低減

作成組織の運用に関する理解

■ データ加工／提供の作業プロセス



■ 上記以外の定常的な作業

- データカタログ等の公開
- 事業からの事前相談受付／情報提供
- 問い合わせ／クレーム対応

■ 営業／プロモーション

等

作成組織に関する運用基準の明確化が進むことを期待

■ 自治体から受領するデータ形式の標準化

- 自治体から受領するデータ形式のパターンが減るほど、コストの抑制が期待できる

■ 個人情報ファイル簿と実際のデータの“相違”を防ぐ仕組みの必要性

- データベース定義書まで参照し計画したが、希望の項目に実際にはデータがない
- 項目名・補記説明などから想起したデータ内容と実際の内容が異なる（誤認）
といったケースが起こる


⇒ 事業者の期待とのアンマッチに備えた仕組みが必要

- データ内容を正確に知る機会の確保
- アンマッチ時の事業者との折衝に関するルール 等

■ 事業者からの提案の審査基準

- 各地方公共団体に代わり審査を行うことになるが、判断基準の妥当性を担保するための基準等があることで、審査の省力化が見込まれる
- 形式的な例としては、提案を行う事業者はPマーク事業者のみを対象とする 等

明確化が進むほどリスク費用等が低減、採算性の向上が期待



FUJITSU

shaping tomorrow with you